

文化・芸術



「ウィリアム・シェイクスピア
『テンペスト』」展示風景

マルク・シャガール (1887~1985年)

《名画の扉》

移動大川美術館展「物語をえがく
—文学と版画の世界—」から

「嵐」を意味する「テ
ンペスト」は、シェーク
スピアが晩年に手がけ
たロマンス劇の一つ
で、画家や挿絵画家の
想像力をかきたてた作
品でもあります。主人
公プロスペローは弟ら
の策略によりミラン公
の地位を追われ、幼い
娘ミランダとともに絶
海の孤島に流されま
す。時を経て、島の近
くに弟ら一行の船が現
れ、プロスペローは魔
術と島の妖精の力で大
嵐を起こし、復讐(ふ
くしゅう)を果たすと
いうストーリーです。
本作はシャガール晩
年の挿絵作品。とりわ
けナボリの王子と娘ミ
ランダの恋物語がドラ
マチックに描き込ま
れ、愛の画家として知
られるシャガールらし
さがあらわれていま
す。「テンペスト」の作
中、登場人物は妖精の
力で幾度となく悪夢や
幸せな幻想に包まれま
すが、本作ではシャガ
ール独自の浮遊感のあ
る画面で作品全体とし
ても幻想的な世界がつ
くり出されています。
文化会館で7日まで
開催の移動展ではシャ
ガールによる三つの版
画集をご紹介します。
ぜひご覧ください
(大谷)